7月の行事・歳時記といえば

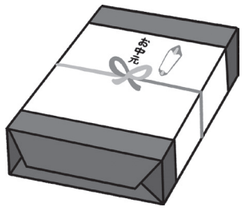
外販課　　西口　晃平

7月の代表的な行事・暮らしの歳時記・行事食をご紹介します。梅雨明けが近づき、だんだんと暑い夏の気配を感じる7月。
7月の行事といえば、なじみ深い「七夕」を思い浮かべる人も多いと思いますが、他にも夏を迎える準備として昔から大切にされてきた行事や日本唯一の祝日「海の日」など様々あります。代表的な7月の行事や風物詩などについて詳しくご紹介します。

7月7日【七夕】

七夕（たなばた）の由来・起源は、中国伝来の七夕伝説（星伝説）にあります。奈良時代に中国から、七夕伝説の織姫と彦星の逢瀬を祝い、機織りなどの技芸が巧みになるように乞う祭り（奠）と言う意味の「乞巧奠（きっこうでん）」が伝わり、七夕の節句に変化していきました。
現在のような七夕飾り（笹飾り）になったのは、江戸時代だといわれています。江戸時代は寺子屋が増えたため、習字や習い事の上達を願う行事として親しまれ、短冊に願い事を書くことが広がっていきました。

7月15日が目安【お中元・中元】



お中元の起源は、古代中国の「三元（上元：1月15日に天神様、中元：7月15日に慈悲神様、下元：10月15日に水と火の神様をまつる風習）」にあります。この中元が仏教の盂蘭盆会と結び付き、日本では先祖の霊を供養するようになり、親類などへお供えものを配る習慣ができました。本来、中元は旧暦7月15日をさし、お盆のお供えものを贈っていた風習に由来するため、お中元を贈る時期は地方や家によって異なります。

2025年は、7月21日【海の日】

「海の日」は7月の第3月曜日。2025年は7月21日です。
海の日は、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」という趣旨で祝日に制定されました。国土交通省によると「世界の国々の中で『海の日』を国民の祝日としている国は唯一日本だけ」とのこと。海に囲まれ、海の恩恵をうけながら発展してきた日本ならではの祝日といえます。
1996年に国民の祝日として施行されましたが、当初「海の日」は7月20日でした。2003年に祝日法が改正されると、いわゆるハッピーマンデーにより「7月第3月曜日」になりました。なお、2020年と2021年は東京五輪の関係で「海の日」「山の日」「スポーツの日」の3つの祝日が移動されていましたが、2022年に元に戻りました。

2025年は、7月19日と7月31日【土用の丑の日】

「土用」とは雑節のひとつで、立春、立夏、立秋、立冬の前のおよそ18日間をさします。土用は季節ごとに年に4回あるのですが、おなじみの「土用の丑の日」の土用は、「夏の土用（立秋前の約18日間）」をさしています。昔は季節の変わり目に様々な禁忌や風習があり、特に夏の土用は梅雨明けと重なるため、衣類や調度品などの湿気をとる「土用の虫干し」をしたり、肌にいい「丑湯」に入ったり、梅干し・うどん・瓜（うり）など「う」のつくものを食べて無病息災を祈願するようになりました。
うなぎも「う」のつく食べ物。タンパク質やビタミンなどをたっぷり含み、夏バテ防止に役立ちます。『万葉集』にも、大伴家持が痩せこけた知人の夏痩せ防止にうなぎを勧める歌があり、古くからうなぎが滋養強壮に効く食べものとして注目されていたことがわかります。

日本の行事や風習には、蒸し暑い日本の夏を乗り切る智恵がつまっています。みなさまも上手に取り入れて過ごしてみてはいかがでしょうか。

伊賀のあれこれ

ホームガス課
宮本　剛佳

日頃よりアポロ興産株式会社を御利用くださり、ありがとうございます。
今、大阪で万博が開催されています。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。サブテーマとして「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」。
コンセプトは「未来社会の実験場」。①展示を見るだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」。②万博開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットホームを立ち上げ。③人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造、発信する場に。
開催期間は2025年4月13日（日）から10月13日（月）の184日間。開催場所は大阪の夢洲（ゆめしま）。マスコットはミャクミャクで、大屋根リングやガンダム像、世界各国のパビリオンが色々とあります。初日の「ブルーインパルス展示飛行」が、雨のため中止になったのは残念です。
今回の伊賀のあれこれは、伊賀で開かれた博覧会の事について見ていきたいと思います。

皆さんは、伊賀で博覧会があった事を知っていますか？

昭和26年（1951年）8月18日に開会された上野市議会は、24日の最終日になっても大いにもめていました。
この日、市制10周年の記念事業として「世界こども博」の開催の件を討議するなかで、中井徳次郎市長が「損失の覚悟は凡そ（およそ）500万くらいと考えている」と説明したからである。
議員側からは「初めから損を考えて開催するのは如何なるものか」とのクレームがついた。
しかし、市長も負けずに「博覧会で利益を挙げた例は聞いたことが無い。赤字覚悟で敢然とやるぐらいの意気込みが無いと、こんな大事業はできぬ。この際、収支は第二義的であり、この博覧会で仮に役所が損をしても、市民が儲ければよいとの意味で500万円である」と応酬。
納得いかぬ議員がさらに「損を覚悟でやるより、儲けることを覚悟でやりたい」などと市長に詰め寄る場面もあったが、休憩や全員協議会をはさんだのち、最終的には全員「異議なし」で市長提案が可決された。
開催の目的を「青少年児童の教育、文化、厚生、娯楽に関する各般の施設及び資料を世界的規模によって収集展観し、新日本青少年児童の道義並びに智能の向上を図ること」とし、会期は昭和27年3月15日から5月15日までの2カ月間、会場は上野公園一帯と決定。
12月17日に現地で起工式が行われ、忍術不思議館、国連平和館、世界探検パノラマ、ユネスコ子供館、驚異の科学館。野外演芸場などが作られた。
開幕すると、野外演芸場には連日のように田端義夫、津村謙、川田晴久、林伊佐緒、小唄勝太郎、広沢虎造、天津羽衣らの芸能人が出演、なかでも5月5日に来演した天才少女歌手、美空ひばりは超大人気で、伊勢新聞は、この日の様子を「売店の屋根や桜の木も人で鈴なりの状態、そのため負傷者数名、迷子者を出すほどの混雑ぶりを呈し、この日の人出は8万人」と報道しています。ちなみに美空ひばりのギャラは破格の50万円だったそうです。
期間中、特に人気を集めたのは、甲賀流14世を名のる藤田西湖の忍術実演で、これが忍術不思議館とともに、のちの忍術ブームのきっかけとなりました。また飛行塔、ウォーターシュート、ボートなどの遊具のほか、NHKが提供したテレビジョンは珍しさもあってなかなかの人気でした。
閉会式は5月18日に行われ、中井市長は「この博覧会のもつ特殊性と意義が極めて効果的に活用された。これは将来の市勢発展に根深い原動力となったと確信する」と話し、入場者数が30万人を突破したことを報告した。この博覧会の開催を機に都市基盤整備が進み、街では大売出しなどで経済効果もありました。
兎にも角にも上野市民がこれほど一体となってわき上がったことは、後にも先にもなかったのでは。その意味でも市民の心に残る市制施行10周年を祝う一大イベントであったそうです。
最後にこの時に作られた歌があります。

世界こども博の歌

① 空は青空　ホーイホイ
上野の世界こども博
発明　発見　テレビジョン
象さん熊さんホーイホイ
よい子と皆んなで
ゾンロリゾロゾロ　ゾロリコショ

② 花は咲いたよ　ホーイホイ
夢はお城の　子ども博
世界探検　パノラマだ
月の世界で　ホーイホイ
よい子と皆んなで
ゾンロリゾロゾロ　ゾロリコショ

③ 風はそよ風　ホーイホイ
上野の　世界こども博
おとぎの汽車です飛行塔
ウォーターシュートでホーイホイ
よい子と皆んなで
ゾンロリゾロゾロ　ゾロリコショ

上野でこのような博覧会があった事は初めて知りました。皆さんも時間のある時には、地元の歴史について考えてみてはいかがでしょうか。